

普及活動情勢報告（平成31年2月分）

高吾農業改良普及所

イチゴ品評会が開催されました



審査の様子

1月31日にJA高知県仁淀川地区佐川支所苺部会の品評会が行われました。17戸の農家がパック詰めされた「ゆめのか」を持ち寄り、部会員全員と関係機関で審査を行いました。最優秀に選ばれたものは全体の色つきがよく果皮に照りがあり、特に果形の揃いがよいことが評価されました。

管内のイチゴは関西まで出荷されており、品質が高く評価されています。普及所は今後も高品質ないちご生産に向けて支援していきます。

夏秋トマト事業説明会 ～天敵の普及に向けて～



生産者への事業説明会

2月1日、仁淀川町役場にて夏秋トマト生産者9戸が環境保全型農業推進事業費補助金に関する説明会に参加しました。

事業を推進するに至った経緯が仁淀川町役場から説明された後、普及所から事業要件や注意点について説明を行いました。また、多くの生産者は天敵を使ったことが無いことから、対象とする天敵資材の使い方や効果についての説明を行いました。

今後、事業の希望者を募った後、普及所は団体の設立や規約の作成、円滑な事業の推進に向けて支援していきます。

高吾地区集落営農研修会



ワークショップ実践中

2月8日、普及所は集落営農研修会を開催し、管内の集落営農3組織や中山間直払、多面的機能支払の組織及び町村等関係機関26名が参加しました。

講師の広島経済大学山本先生から集落営農組織の継続・発展に必要な事について他県の事例で学んだあと、担い手の状況や今後の方向性について話し合い、発表しました。「当面は退職者でカバーするが若い担い手はいない」といった声がある一方で「集落で話し合うことが大事」「今後集落営農組織を立ち上げたい」との声も聞かれました。

これからも普及所は関係機関と連携し、地域での話し合いを推進する等、集落営農への啓発活動を継続していきます。

山椒の安定生産のために ～(農) ヒューマンライフ土佐がせん定講習会を開催～



説明を聞く生産者

1月28日、ヒューマンライフ土佐が越知町野老山地区でせん定講習会を開催し、生産者ら31名が参加しました。

普及所職員が講師となり、理想的な樹形の形やせん定の目的、必要性を説明しながら、実際にせん定を行いました。「高樹齢の園地では弱せん定としてはどうか」、「病虫害被害ではないが生育不良、原因は？」など、生産者からの意見や質問も多く、有意義な講習会となりました。

普及所では、地域の特産物として安定生産を継続できるよう、巡回や情報提供を行い支援していきます。